

◆◇◆ 後進の育成 ◆◇◆

【金を残すは下。仕事を残すは中。人を残すは上。】

後進の育成、特に心を伝えることができたなら、最高の生き方なんだろうと思います。

「医療」のように、究極理想は人に寄り添い、往く人をいたわり背中を摩ることのできる人づくりができたなら、他に望むことは無いのかもしれませんが。

「歯科医療」においても、人それぞれに歯科医療人を志した動機があります。

価値観が多様化している今、人それぞれの心の轍の上で獲得してきたものには違いがあるはずです。

それらを否定するのではなく、その延長線上にどのような共通のプロフェッショナル・オートノミーを築いていけるのかが課題ではないでしょうか。

自分が「歯科医師になるんだ！」と強く自覚したのが、歯学部 3 年解剖実習のときでした。歯科医師免許も持たず、ただの学生に過ぎない二十歳過ぎの自分が、普通の人と同じことをしたら「死体損壊」などで罪に問われることを許されている現実。

これは一体なんだ！と愕然としたとき、
献体して下さった「おばあさん」からの声無き言葉が、自らの心に届きそして響きました。
「私の体をくまなく隅々までしっかり見なさい。もう後戻りは許されませんよ。立派な歯科医師になるんですよ」と。

このような原風景を、きっと医療職を志した皆が持っていると思います。

そしてそっと心で手を合わせた実感があるはずです。

それが実は先達から受け継いだ共通の【轍】かも知れません。

踏みしめて踏みしめて形となってきた【轍】なのかもしれません。

そんな受け継ぐべき道に立つ道標〔マイルストーン（里程標）〕が見えにくくなった時代だとしたら、プロフェッショナル・オートノミーは、その理念を共有して皆でいつも話し合い考えることが大切です。

与え与えられるものではなく、自らが創り、「クレド（理念・哲学）」としていつも携帯できるよう話し、考える時間を持つことが求められます。

そうすることで、自ら考え行動できる〔医療人〕の育成につながっていくのではないかと考えます。

（参考）

日本クレド

<http://j-credo.com/about/credo.html>

クレドとはラテン語で信条、志（こころざし）の意味です。

今では経営哲学、行動指針として世界中の企業で使われています。

社長はどこに向かって経営をしていくのか全社員に明示でき、

そこで働く社員は安心して
自分の人生を託すことができる。
そんな会社づくりに邁進していただきたく思います。

株式会社 セルバ

<http://www.sun-selva.co.jp/html/company/idea.html>

- 1、 誠実で正しい商売をする
—— これがセルバの商いです
- 1、 おいしさ、べんりに、こちよい を創造する
—— これがセルバのお店です
- 1、 ありがとう と 言っていただけの仕事をする
—— これがセルバの風土です

ジョンソンアンドジョンソン

<http://www.jni.co.jp/group/community/credo/index.html>

我々の第一の責任は、我々の製品およびサービスを使用してくれる医師、看護師、患者、そして母親、父親をはじめとする、すべての顧客に対するものであると確信する。
顧客一人一人のニーズに応えるにあたり、我々の行なうすべての活動は質的に高い水準のものでなければならない。

適正な価格を維持するため、我々は常に製品原価を引き下げる努力をしなければならない。

顧客からの注文には、迅速、かつ正確に応えなければならない。

我々の取引先には、適正な利益をあげる機会を提供しなければならない。

我々の第二の責任は全社員 ——世界中で共に働く男性も女性も—— に対するものである。
社員一人一人は個人として尊重され、その尊厳と価値が認められなければならない。
社員は安心して仕事に従事できなければならない。

待遇は公正かつ適切でなければならない、

働く環境は清潔で、整理整頓され、かつ安全でなければならない。

社員が家族に対する責任を十分果たすことができるよう、配慮しなければならない。

社員の提案、苦情が自由にできる環境でなければならない。

能力ある人々には、雇用、能力開発および昇進の機会が平等に与えられなければならない。

我々は有能な管理者を任命しなければならない。

そして、その行動は公正、かつ道義にかなったものでなければならない。

我々の第三の責任は、我々が生活し、働いている地域社会、
更には全世界の共同社会に対するものである。

我々は良き市民として、有益な社会事業および福祉に貢献し、適切な租税を負担しなけ

ればならない。

我々は社会の発展、健康の増進、教育の改善に寄与する活動に参画しなければならない。
我々が使用する施設を常に良好な状態に保ち、環境と資源の保護に努めなければならない。
い。

我々の第四の、そして最後の責任は、会社の株主に対するものである。

事業は健全な利益を生まなければならない。

我々は新しい考えを試みなければならない。

研究・開発は継続され、革新的な企画は開発され、失敗は償わなければならない。

新しい設備を購入し、新しい施設を整備し、新しい製品を市場に導入しなければならない。
い。

逆境の時に備えて蓄積をおこなわなければならない。

これらすべての原則が実行されてはじめて、株主は正当な報酬を享受することができる
ものと確信する。

February20, 2008 / Sao wrote